

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和3年 4月 6日

事業所名 こども発達支援センター ココイク

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		利用児童に合わせて、クラス以外の教室や遊戯室、交流ホームも有効活用して過ごしています。	各クラスの教室は法令基準以上のスペースを確保している。しかし、利用児童の日々の姿や、特性、個別訓練などによってスペースが窮屈に感じるときもあり、左記対応をとっている。
	2	職員の配置数は適切である	○		担任のみならず、専門スタッフもクラスの活動時間に介入し、集団の場での訓練に繋げている。	・法令基準に基づいて配置していますが、日によって利用児童の数に差があるため、調整を図っていく。 ・法令基準以上の配置は行えているが、児の特性に合わせた支援を提供することや、急な職員の休みに対応することに対しては、余裕がなく関連業務に支障が出ることもある。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		絵カードやタイムタイマー、日課表の活用で、見通しを立てています。	・県外のセンターを参考に建設しており、明るく、見通しの立てやすい環境にあるが、より良い環境にできる余地もある。個々に適した支援が提供出来るよう、事業所内での情報共有を図っていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		毎日児童登所前後に掃除を行っています。	・場所によっては子供用のトイレのみとなり、使用しにくさが出ているため、児童の発達段階に合わせて、大人用のトイレへの誘導を行っています。 ・活動に合わせた備品の充実も図っていきます。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		月に1回の職員会議・ケース会議に加え、日々の振り返りに加え、日々の振り返りを行えるように調整しました。改善を全スタッフで検討しています。	・療育時間を調整し、日々の振り返り・目標共有の時間を設けました。今後も質の高い振り返りの時間になるよう改善を図っていきます。 ・月に1回、児童の受け入れを振り返ってもらい、全スタッフでの会議を実施し、課題や目標の共有を行います。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		年に一度の自己評価に重ね、行事の際や、日々の療育に関するアンケートを実施し、スタッフにて共有しています。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		・ホームページにて公開。同時にスタッフにて共有しています。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○	○	第三者委員によるセンターの事業状況の報告や、訪問を行っています。	・スタッフからの声も引き上げて行けるよう、苦情ボックスの設置を早める。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		年間通じて全スタッフが研修に参加できるように推奨している。	・スタッフからの要望や、機関からの案内、研修計画等に基づいて研修を実施しています。新型コロナ感染予防として、WEB研修の利用も行っています。また、各研修を共有する場を設けています。
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		受け入れ時にはクラス担任・児発管に加え、心理士も同席し面談を行い、ニーズの確認や、課題目標を設定しています。	・日々の児や保護者のニーズを反映させるように意識して関わってはいるものの、タイムリーに支援計画の作成までつなげていないこともある。 ・ニーズや課題に応じた支援計画を適宜作成していきます。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		スタッフの業務負担軽減のため、記録等にリンクできる支援ソフトを活用しています。	・独自のアセスメントシートも活用しながら、利用児の状況把握に努めている。 ・標準化されたアセスメントツールの使用もおこなっているが、全利用児に適していない事もあり、全員に実施する難しさがある。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		日々の振り返りやケース会議にて全スタッフで一人一人への支援計画を検討している。また、地域(住民・関連機関)との相談対応や連携を図っていきます。	・事業所内でのガイドラインの共通認識を高める工夫も必要性を感じます。 ・少しずつ、地域や家族への支援も行えてきていると考えます。今後も地域診断も含め、市との連携も密に図りより充実した支援を目指します。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		療育時間を調整し、日々の振り返りの時間を設定。振り返りや全スタッフ参加の会議にて計画を確認。	計画を意識した取り組みは行っていますが、新たな課題や変化に応じた対応が十分であるとは言えず、今後も質の向上を図る。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		参加児童の状況で、活動等を検討しています。	・プログラムの作成においてはクラス担任に課せられていましたが、個々の能力を引き出せるよう、専門職も加えプログラムの設定を考えていきます。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		発達年齢やクラスに応じて活動をそれぞれ取り決めている。広い園庭や、日々の状態に沿って活動できる場を変え対応しています。	・必要に応じて戸外の活動も取り入れ広がりを図っています。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		昨年度に比べ、個別の訓練時間の確保ができています。リハスタッフが個別訓練を対応するなど役割を分け支援しています。	・改善はしてきているものの、依然、個別の活動のニーズも高く、今後もニーズに応じていけるよう調整を図っていきます。また、専門職が主体となって活動を運営する日も設定するなど、小集団での関わりでニーズに応じていく。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		全スタッフで始業開始時にミーティングを行い、日々の業務を確認しています。	・昨年度までは、療育時間とスタッフの就業時間に開きがなかった為、確認や準備の時間確保が難しく、今年度は療育時間を基本午前中としました。子供たちの降所後の時間を有効活用し、療育の準備や振り返り時間の確保に努めています。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		日々の状況について、振り返りを行い、情報共有を行っています。	継続開催し、振り返り自体の質の向上を図っていきます。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		日々の担当が活動内容や、活動の目標、児童の姿を毎日記録しています。	今後も継続し、記録や支援の検証の質の向上を図っていきます。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		半年に1回のモニタリングを必須としています。	・直接業務以外に日々の振り返りなどで支援の在り方を検討しています。しかし、支援計画の見直しへの時間の確保が厳しいこともある。課題となっている為、相談員との会議と重ね、個別モニタリングを実施していきます。
21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児発管と担当、必要に応じて専門職も参加しています。参加した者が記録し全スタッフに回覧しています。		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		同一事業所内で親子通園事業や、事後教室を開催。連携を図っています。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			現時点で医療的なケアが必要な児童や、重症心身障害のある児童の受け入れがありません。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		会議の参加や、家族の了解を得て、日々の送迎の機会なども利用し、こども園等の状況を確認しています。	すでに就園している児童が多く、今後も会議等や足を運ぶなどして連携していきます。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		会議や家族を通じて共有しています。	連携している児童と、来ていない児童がいるため、今後は年間を通じて共有の場面をもうけて行く。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		・沖縄県発達障がい者支援センターがじゅまーのコンサル事業を受けています。 ・他の事業所とも会議などの際に連携を取り合っている。	・今後も、発達障害者支援センターなどからの助言を仰いだり、他の事業所に加え、他のセンターとも連携を図っていき、療育の質を高める事が出来るよう取り組んでいきます。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○	新型コロナウイルスの影響もあり、不特定多数との積極的な交流は控えています。	感染状況や先方の意向も考慮しながら検討していく。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		児発管が参加し、議事録を回覧し情報共有をしています。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		お便り帳を作成し、センターでの状況をお伝えしている。また必要に応じて、電話連絡などでも家族へ情報を引き継ぐようにしています。	家族と顔を合わせた中での情報伝達の機会は減っている為、連絡伝達手段の検討も継続していく。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		保護者対象・支援者対象のペアレントプログラムを実施。	
関係機関や保護者との連携	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に児発管より説明する。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		ガイドラインをスタッフ各自が保管。日々常に目を通せる状態にしている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		相談内容に応じたスタッフが対応しています。	・外部からの相談も増え、心理士や専門職が対応していますが、市とも連携し対策を図りたいと考えています。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		今年度は新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮し、クラス毎に開催を行いました。	・行事の際に顔を合わせる事で、きっかけづくりになると考えており、行事の際にはクラス会を兼ねています。
	36					

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		送迎時や、ご家族からの要望時は面談できる体制をとっています。	・相談があった際には、児発管、担任、専門職にて共有し対応しています。また、保護者の状況をみながらこちらからお声掛けをさせて頂くこともあります。相談内容を、内容に応じて全体共有しています。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		ココイク便りを月に1回発行。	・日々の療育の姿も写真等に収めていますが、タイムリーに開示する事が難しく、行事や家族会等で開示をしています。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		事業所事務所内で管理。	・画像の管理に課題あり。事業所内のパソコンのフォルダーに移行後し個人管理はしない事とする。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		言語聴覚士を中心にツールを統一している。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		例年、法人母体と一体型の祭りを開催(祭り際にはセンターも開放)しているが、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染状況により、開催出来なかった。	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している		○		・職員全員が統一して理解、認識できるマニュアルを作成中。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		非常時の設備の把握や連絡網の作成は済んでいる。	・今年度は2回の訓練実施であった。次年度は内容を変え3回実施予定。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		会議や面談の場で口頭や書面にて確認し、全体共有する。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		栄養士作成のアレルギー調査票に記入、押印する。その後全体共有。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハットノートを作成し、スタッフで共有し事故の予防に努めている。また、事故の際には事故報告書を作成し、今後の対策を検討する。	・事故やケガの際の状況、対応策を全体共有し、対策を図っています。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		・センター内でアンケート調査を実施し、意識の向上を図った。 ・特性に沿った児との関わりや、支援に関する研修など、スタッフに参加を促がしている。	今後もアンケート調査や、虐待に特化した研修会などの実施も検討していく。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		契約書に記載されている項目である為、契約時に家族に説明しています。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。